

会 員 各 位

一般社団法人栃木県トラック協会
会 長 石 塚 安 民
(公印省略)

令和3年度「トラック運送業界における点検整備推進運動」の実施について

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、当協会の事業運営にご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、国土交通省より（公社）全日本トラック協会を通じて標記について下記のとおり通達がありましたので、本運動の推進にご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、下記自主点検結果を令和3年11月10日（水）までに栃木県トラック協会へFAX（028-684-5889）にてご報告をお願いいたします。

記

1. 実施期間 ①全国統一の強化月間 9月1日（水）～ 9月30日（木）
②地方独自の強化月間 10月1日（金）～ 10月31日（日）

2. 実施項目 (1)「大型自動車に関する適切な点検・整備の実施方法についての啓発」
(2)「黒煙濃度に影響を及ぼす部品等の自主点検・整備の実施に関する啓発」
(3)「DPF（黒煙除去フィルタ）等の後処理装置付き車の正しい使用方法に関する啓発」

※上記(2)について、下記の「自主点検結果の報告書」によりご報告ください。

※本運動の実施要領については、（一社）栃木県トラック協会HPをご参照ください。

インターネットを利用できない場合は、問い合わせ先（適正化）へご連絡ください。

3. 報告期限 令和3年11月10日（水）

※令和3年9月・10月の実施結果を一緒に報告してください。

以上

【問い合わせ先】 （一社）栃木県トラック協会 適正化事業部（中平）

TEL：028-684-5882 FAX：028-684-5889

運送事業者による自主点検結果の報告書

会社名： _____

①エア・クリーナーを清掃した車両数	9月 台	10月 台
②エア・クリーナーを交換した車両数	9月 台	10月 台
③エア・クリーナーの清掃、交換の必要がなかった車両数	9月 台	10月 台

※11月10日（水）までにご報告をお願いします。

FAX 028-684-5889

令和3年度「トラック運送業界における点検整備推進運動」 実施要領

令和3年5月27日
公益社団法人全日本トラック協会

第1. 目的

トラック輸送は、今や国民の生活や経済に不可欠な存在である。一方、トラックによる交通事故は重大事故に繋がることが多く、特に大型トラックでは、重大事故につながりかねない車輪脱落事故が多発しており、車輪脱落事故や不具合等による事故防止をはじめ、環境面においても排出ガスによる大気汚染や地球温暖化問題への対応が求められている。

さらに、日常点検、定期点検などによる点検・整備の実施が義務付けられているものの、その実施状況は必ずしも十分とは言えず、また、平成30年10月1日には車両総重量8トン以上のトラックのスペアタイヤ等が新たに3ヶ月毎の定期点検項目に追加されるなど、不正改造の防止とともに、確実な点検整備の実施を徹底して行く必要がある。

また、近年、大型トラック（車両総重量8トン以上）の車輪脱落事故が急増しており、ホイール・ナットの緩みの点検の確実な実施が必要です。

このため、トラック運送業界として、より確実な点検整備を目指して、各都道府県トラック協会の協力のもと、全国的に「トラック運送業界における点検整備推進運動」を展開する。

第2. 実施期間

本運動は1年を通じて実施するものとするが、令和3年9月1日(水)から9月30日(木)までの1ヶ月間を全国統一の「自動車点検整備推進運動強化月間」とし、これに加え、地域事情に応じて各都道府県トラック協会が独自に設定する1ヶ月間を「地方独自強化月間」として、特に重点をおいて実施する。

第3. 実施内容と周知方策

1. 実施項目

(1) 「大型自動車に関する適切な点検・整備の実施方法についての啓発」

機関誌（紙）やホームページ等を活用し、大型トラックのホイールの取付状態や燃料装置等の重点箇所に係る点検の実施を周知する。

①法定定期点検項目のうち、以下に掲げる点検項目を重点点検項目とする。

重点点検項目

点検箇所		点検時期	3ヶ月点検	12ヶ月点検
原動機	燃料装置		燃料もれ	同左
電気装置	電気配線		接続部の緩み及び損傷	同左
制動装置	ホース及びパイプ		漏れ、損傷及び取付状態	同左
	ブレーキ・チャンバ		ロッドのストローク	同左 機能

②貨物運送事業者が保有する全ての大型貨物自動車について、重点点検期間中（9月1日～11月30日）、法定点検時期の有無に係わらずに一回以上、ホイール・ナットの緩みの重点点検を実施する。なお、冬用タイヤへの交換後1ヶ月以内に車輪が脱落している傾向があることから、重点点検期間中に冬用タイヤへの交換を予定している場合には、冬用タイヤ交換後に点検することが望ましい。

(2)「黒煙濃度に影響を及ぼす部品等の自主点検・整備の実施に関する啓発」

黒煙濃度の悪化に大きな影響を与えるエア・クリーナ・エレメント、燃料フィルタ、燃料噴射ポンプ等の点検・整備の自主的な実施について周知する。

(3)「DPF（黒煙除去フィルタ）等の後処理装置付き車の正しい使用方法に関する啓発」

確実な定期点検の実施、DPFに堆積したアッシュ（灰分）の定期的な点検・清掃、低硫黄軽油（S10）の使用、メーカー指定のエンジンオイルの使用等、DPF装着車両の正しい使用方法についての周知を図る。

2. 周知方策

- (1) 全ト協において、全ト協機関紙「広報とらつく」及びホームページ等により、本運動の周知を図る。
- (2) 各都道府県トラック協会において、ホームページ及び機関誌（紙）等を活用し、全会員事業者等へ周知を図る。
- (3) 地方適正化事業実施機関における事業者巡回指導の際に、各事業所へ本運動の啓発・指導を実施する。
- (4) 業界紙等に本運動の広告を掲載する。

以 上